

「固定電話網の円滑な移行の在り方について」

2016年 4月26日

一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会
(CIAJ)

本資料は、総務省から2016年2月10日に公示された「固定電話網の円滑な移行の在り方に関する提案募集」に基づき、CIAJとしての意見をまとめたものです。

目次

1. CIAJの概要
2. 基本的考え方
3. 海外の状況
4. メーカーにおける生産
5. 端末機器等について

1. CIAJの概要

2015年度 CIAJの概要

情報通信技術(ICT)活用の一層の促進により、情報通信ネットワークに係る産業の健全な発展をはかるとともに、情報利用の拡大・高度化に寄与することによって、社会的、経済的、文化的に豊かな国民生活の実現および国際社会の実現に貢献することを活動の目的としています。

通信ネットワーク・端末機器等の供給事業者が正会員として、通信事業者やサービス・プロバイダー、ユーザー企業等がフォーラム会員として加盟し、ICT産業の活性化につながる政策提言・意見発信、ICT利活用の推進による新たなビジネス創出の推進、グローバルビジネスの推進、業界共通諸課題の解決に取り組んでいます。



主要会員 沖電気(株) 日本電気(株) 富士通(株) シャープ(株)
パナソニック(株) 三菱電機(株) (株)東芝 (株)日立製作所

会長 遠藤 信博 (日本電気(株)代表取締役会長)

正会員:110社 フォーラム会員:42社 賛助会員:50社
(2015年11月現在)

2. 基本的考え方 (1/2)

CIAJの基本的考え方

- ブロードバンドは、技術・サービスの革新によって、利用用途が様々なに広がり国民生活の隅々に浸透

情報通信産業の健全な発展により
ブロードバンドを中心とする
安価で利便性の高いサービス実現

《固定電話網について》

- さらなる国民生活の向上のため
固定電話網については、効率的な網への円滑な移行が望ましい

IoT時代に向け、最新の技術を用いた効率的なネットワーク構築と
そのための通信機器の開発

2. 基本的考え方 (2/2)

- **通信機器分野における大きな技術革新により、交換機を構成する技術も大きく進歩しました。**
- **今後の固定電話網は最新の技術を用いて効率的なネットワークを構築することにより、利用者に対して、安価で利便性の高いサービスを提供してゆくことが必要と考えます。**
- **なお、円滑な移行のためには早期に方向性を決める必要があります。**

3. 海外の状況 (1/2)

- 海外の事業者においても固定通信事業の収益性が悪化しています。
- 固定電話網用の従来型交換機は近い将来維持限界を迎える状況と
のことです。
- 規制官庁や事業者においても電話網のIP化に動き出しているようです。
- メーカー視点からも、国際競争力の観点で最新技術による機器での実
現が望ましいと考えております。

3. 海外の状況(2/2)

米国でも携帯電話、特に3G/4Gの高速データ通信の急速な普及に伴い固定電話サービスの解約者が増加し、固定通信事業の収益性が悪化している。
さらに、電話網に使用中のデジタル回線交換機は近い将来維持限界を迎えるため、連邦通信委員会(FCC)や州公益事業委員会(PSC)だけでなく、通信事業者も電話網のIP網への移行に動き出している。

項目	内容	
北米	FCC	・従来の電話網からIP網への移行を認可するためのプロセスとして、通信事業者による小規模な実証実験を認可し、その実験結果を評価した上で、本格的なIPへの移行を認可する方針を打ち出している。
	A社	・光化事業(テレビ、インターネット、VoIP電話)の推進 ・無線への置き換え検討
	B社	・光ファイバー網等の整備 ・テレビ、インターネット、VoIP電話に使用できるサービスの推進 ・TDM回線交換のIPサービスの実証実験中 (アラバマ州カーボンヒル、フロリダ州キングスポイント)

4. メーカーにおける生産 (1/2)

- **これまで販売していた従来型交換機の新規需要は2015年までに終了しました。**
- **2016年以降は、基本的には従来型交換機の需要が無い状況であり、メーカーとして需要の少ない機器の生産維持は困難です。**
- **従来型交換機を生産を継続することはできませんが、修理・保守に関しては、お客様とも協議していきながら、今後対応を行っていく予定です。**

4. メーカーにおける生産 (2/2)

従来型交換機のような需要の少ない機器の生産維持は、以下の観点から困難です。

■ 技術者等の確保

- ・メーカーでは、製造・販売の継続にあたっては、技術者(検査者・技能者を含む)の確保と体制の維持が必要です。

■ 製造・検査・修理設備の維持

- ・稼働の少ない設備を維持することはコスト負担の増加につながります。

■ 部品の調達

- ・少量の部品調達は単価および調達費用の増加に繋がります。

5. 端末機器等について

現在、メタル電話には、ファクシミリ装置等、様々な機器が接続されて利用されています。

■ 技術基準の在り方

- ・基本的には、現在利用されている機器の使用に支障が出ないように配慮が必要と考えます。
- ・「メタルIP電話」について、利用者保護の観点から、電気的特性・機能はメタル電話と同等とするなど、メタル電話で使われている端末装置が利用できることが求められると考えます。

■ 円滑な移行の在り方

- ・利用者、事業者双方の観点から、対応に関しては十分な周知期間をとって情報提供をお願い致します。

